

# しんきんDC日経225 株式ファンド

追加型投信／国内／株式／インデックス型

## 交付運用報告書

第1期(決算日2020年9月10日)

作成対象期間(2019年7月30日～2020年9月10日)

第1期末(2020年9月10日)	
基準価額	11,002円
純資産総額	55百万円
第1期	
騰落率	10.0%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんDC日経225株式ファンド」は2020年9月10日に第1期の決算を行いました。

当ファンドは、我が国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経平均株価(日経225)に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行っています。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。弊社ホームページの「ファンド各種資料」において運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される場合は、販売会社までお問い合わせください。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

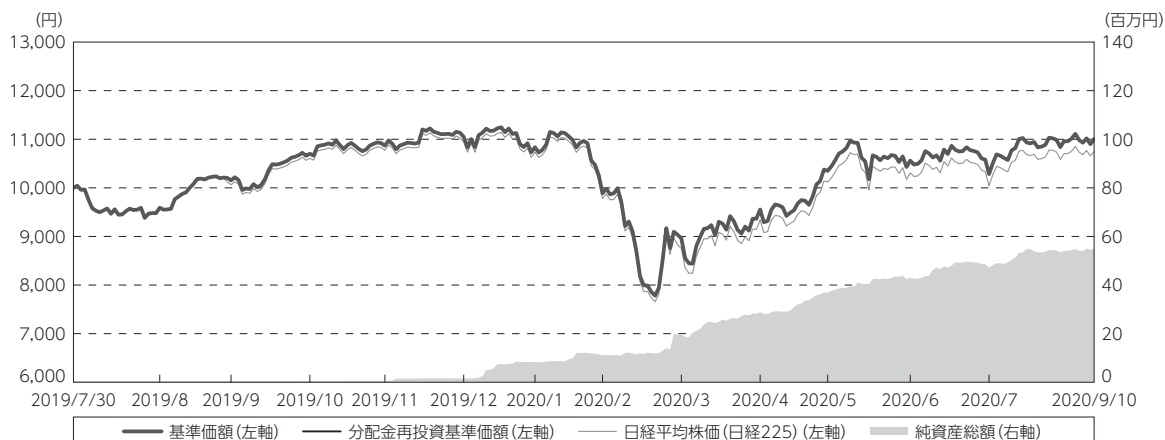
<コールセンター>  0120-781812

(土日、休日を除く) 携帯電話・PHSからは03-5524-8181  
(9:00~17:00)

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2019年7月30日～2020年9月10日)



設定日：10,000円

期末：11,002円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：10.0% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 日経平均株価 (日経225) は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) ベンチマークは、日経平均株価 (日経225) です。詳細は12ページをご参照ください。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、親投資信託である「しんきん日経平均マザーファンド」の受益証券への投資を通じて、日経平均株価 (日経225) の動きに連動する投資成果を目指して運用を行っています。

当期は、日経平均株価が上昇したことを受けて、基準価額は上昇しました。当期の基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

## ＜上昇要因＞

- ・米国の利下げにより景気減速懸念が後退したこと。
- ・英国の合意なき欧州連合 (EU) 離脱懸念が後退したこと。
- ・各国で、新型コロナウイルスの感染拡大による景気への影響軽減のための金融政策および経済対策がとられたこと。

## &lt;下落要因&gt;

- ・トランプ政権による関税措置に伴い、米中間の貿易摩擦が激化したこと。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、投資家のリスク回避姿勢が広がったこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2019年7月30日～2020年9月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	20	0.191	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 8 )	(0.074)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 9 )	(0.092)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3 )	(0.025)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	3	0.031	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 0 )	(0.002)	
( 先 物 ・ オ プ シ ョ ン )	( 3 )	(0.030)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.011	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 1 )	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	24	0.233	
期中の平均基準価額は、10,265円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

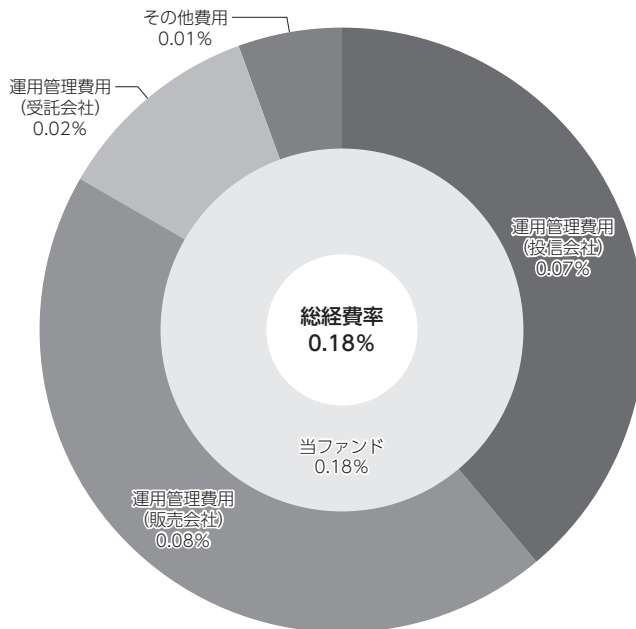
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.18%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年9月10日～2020年9月10日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 日経平均株価(日経225)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しています。  
 (注) 当ファンドの設定日は2019年7月30日です。

	2019年7月30日 設定日	2020年9月10日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,002
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	10.0
日経平均株価(日経225)騰落率 (%)	—	7.5
純資産総額 (百万円)	0.5	55

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。

(注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年9月10日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) ベンチマークは、日経平均株価(日経225)です。詳細は12ページをご参照ください。

**投資環境**

(2019年7月30日～2020年9月10日)

**(2019年7月～9月)**

当期の日経平均株価は、21,616.80円（2019年7月29日終値）の水準から始まりました。7月後半から8月の株式市場は、米中貿易摩擦に対する警戒感が再燃する中、7月末に米連邦準備制度理事会（FRB）が10年半ぶりの利下げを行いました。トランプ政権が中国を経済制裁の対象となる「為替操作国」へ指定したことなどから投資家心理が悪化し下落しました。9月は、香港政府が逃亡犯条例改正案の撤回を表明、英国議会下院がEU離脱の再延期を求める法案を可決、また、米中が10月に閣僚級貿易協議を開くことで合意したことを受けて、国内株は堅調な動きになりました。

**(2019年10月～12月)**

10月の株式市場は、米サプライマネジメント協会（ISM）が発表した製造業景況指数が、低い水準に落ち込んだことなどから、上旬はやや軟調な動きになりましたが、米国の利下げ観測や米中貿易協議の進展期待から上昇に転じ、11月にかけて年初来高値の更新が続きました。12月の株式市場は、米中が第1段階の貿易合意に至ったことや、英国の総選挙で与党・保守党が過半数の議席を獲得し、合意なきEU離脱への懸念が後退したことから、堅調な動きが継続しました。

**(2020年1月～3月)**

1月の株式市場は、米軍によるイラン革命防衛隊の司令官殺害を受け、両国の対立が激化すると懸念から、投資家のリスク回避姿勢が強まり、大幅下落して始まりましたが、その後は米中貿易合意の署名への期待や米イラン対立への過度な懸念後退から、内外の株価は買いが優勢になり、1月20日には、日経平均株価は終値で期中高値となる24,083.51円まで上昇しました。しかしながら、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、投資家のリスク回避姿勢が広がり、3月にかけて大きく値を下げました。3月19日には、日経平均株価は終値で期中安値となる16,552.83円まで下落しました。ただし、月末にかけては、FRBが資金繰り支援のための緊急措置を発動すると発表したことや、トランプ政権が大規模な経済対策を取りまとめたこと、日本銀行（日銀）が上場投資信託（ETF）の買入額を増額したことなどを好感し、やや持ち直す展開となりました。

**(2020年4月～6月)**

4月の株式市場は、緊急事態宣言や東京でのロックダウン（都市封鎖）への警戒感などから、日経平均株価は一時18,000円を割り込みましたが、FRBの新たな巨額の資金供給策や、欧米での経済活動の段階的な再開、新型コロナウイルスのワクチン開発進展への期待などを背景に、月末には2万円台を回復しました。5月は、経済活動再開への期待などから堅調な地合いが続きました。6月は、5月の米国雇用統計が市場予想に反して改善したことから、8日には、日経平均株価は約3か月半ぶりに23,000円台を回復しましたが、米国で新型コロナウイルスの感染者が増え、感染第2波への警戒感が広がったことから、国内外の株価は軟調な展開になり、15日には、日経平均株価は22,000円を大きく割り込むなど一進一退の展開が続きました。

**(2020年7月～当期末)**

7月の株式市場は、国内外で新型コロナウイルスの感染拡大が続く一方、新型コロナウイルスのワクチン開発が進み、経済活動が本格的に再開することへの期待から、日経平均株価はおおむね22,000円台で一進一退の展開が続きました。8月から当期末にかけては、トランプ大統領が失業給付の増額など追

加経済対策の大統領令を発令したことで、米国景気の先行きに安心感が広がったことなどから、国内外の株価は再び堅調な動きになりました。安倍首相が辞意を固めたと報じられ、国内政治の先行き不透明感が広がったことから大きく下落する場面もありましたが、その後は買戻しが優勢になり、期末の日経平均株価は23,235.47円（2020年9月10日終値）となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2019年7月30日～2020年9月10日）

親投資信託である「しんきん日経平均マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、日経平均株価に連動する投資成果を目指して運用を行いました。

## ●しんきん日経平均マザーファンド

現物株式は、日経平均株価採用銘柄の中から財務内容や信用リスクを考慮して、一部の銘柄を除く場合があります。当期末現在、財務内容や信用リスクに著しい問題が生じている企業はないと判断し、225銘柄全てに投資を行っています。

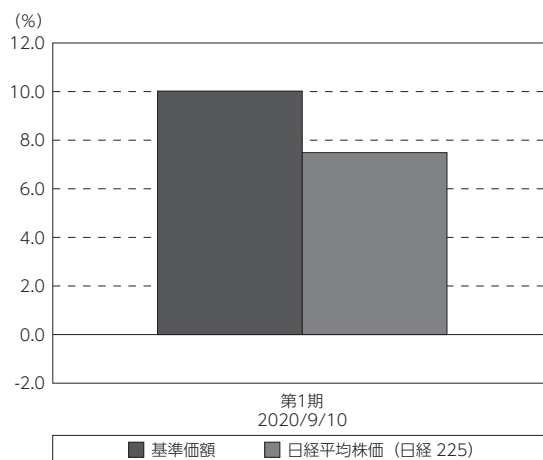
## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2019年7月30日～2020年9月10日）

当期における基準価額の騰落率は、+10.0%となり、ベンチマークである日経平均株価の騰落率+7.5%を2.5%上回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因としては、保有している組入銘柄の配当金計上などのプラス要因が、信託報酬や株式売買手数料などのマイナス要因を上回ったことが挙げられます。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、日経平均株価（日経225）です。詳細は12ページをご参照ください。

**分配金**

(2019年7月30日～2020年9月10日)

当期の収益分配金については、基準価額水準等を勘案して見送りとしました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

**分配原資の内訳**

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2019年7月30日～ 2020年9月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,001

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

引き続き、親投資信託である「しんきん日経平均マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、日経平均株価に連動する投資成果を目標として運用を行います。

**●しんきん日経平均マザーファンド**

運用の基本方針に従い、日経平均株価採用銘柄のうち、200銘柄以上に投資を行うとともに、日経平均先物等も利用しながら株式組入比率を高位に保ち、日経平均株価に連動する投資成果を目標として運用を行います。



## お知らせ

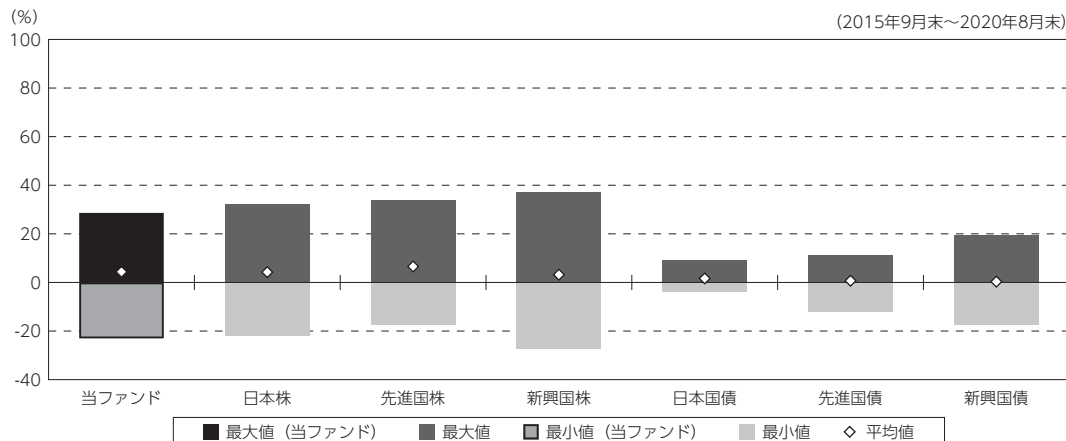
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式／インデックス型
信託期間	無期限
運用方針	<p>①主として「しんきん日経平均マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券への投資を通じて、日経平均株価（日経225）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、我が国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。</p> <p>④株式以外の資産への実質投資割合は、原則として、投資信託財産の総額の50%以下とします。</p> <p>⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主要投資対象	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することがあります。
運用方法	我が国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経225に連動する投資成果の獲得を目指します。
分配方針	<p>年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。</p>

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	28.6	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 23.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	4.4	4.2	6.6	3.2	1.6	0.7	0.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年9月から2020年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドの設定日以前の年間騰落率につきましては、当ファンドの対象インデックスを用いて算出しています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、12ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年9月10日現在)

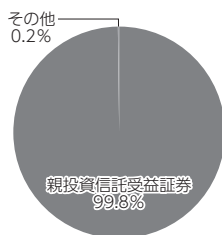
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
しんきん日経平均マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

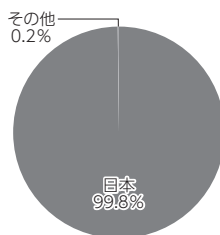
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

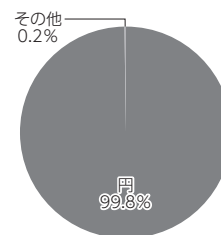
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

## 純資産等

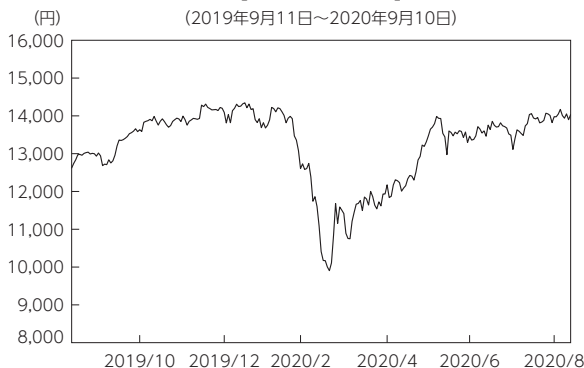
項目	第1期末
	2020年9月10日
純資産総額	55,071,423円
受益権総口数	50,055,993口
1万口当たり基準価額	11,002円

(注) 期中における追加設定元本額は51,438,881円、同解約元本額は1,882,888円です。

## 組入上位ファンドの概要

## しんきん日経平均マザーファンド

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2019年9月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式 ) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン )	4 (0) (3)	0.027 (0.002) (0.025)
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他 )	0 (0)	0.003 (0.003)
合 計	4	0.030

期中の平均基準価額は、13,189円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## 【組入上位10銘柄】

(2020年9月10日現在)

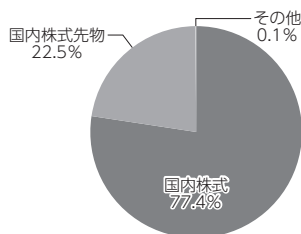
順位	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率 %
1	日経平均株価指数先物	株式先物(買建)	円	日本	22.5
2	ファーストリテイリング	小売業	円	日本	7.9
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	4.2
4	東京エレクトロン	電気機器	円	日本	3.1
5	ファナック	電気機器	円	日本	2.5
6	ダイキン工業	機械	円	日本	2.3
7	KDDI	情報・通信業	円	日本	2.1
8	テルモ	精密機器	円	日本	2.1
9	エムスリー	サービス業	円	日本	1.8
10	中外製薬	医薬品	円	日本	1.7
組入銘柄数			226銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

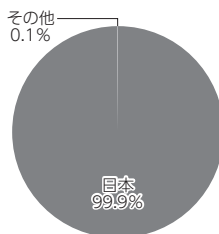
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

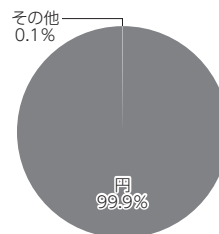
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

## ＜当ファンドのベンチマークについて＞

「日経平均株価（日経平均）」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、日経平均自体および日経平均を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。「日経」および「日経平均」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。「しんきんDC日経225株式ファンド」は、委託会社の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用および受益権の取引等に関して一切の責任を負いません。株式会社日本経済新聞社は、日経平均を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。株式会社日本経済新聞社は、日経平均の構成銘柄、計算方法、その他日経平均の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

## ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

### ○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。